森林ボランティアクラブ

ウッディ阿賀の会

会報 第4号 2001年 1月

三川村で建設中のログハウスの取り組みが専門誌「林業新知識」に大きく掲載された＝「林業新知識」提供

トップは森林ボランティア班誕生

2000年 ウッディ阿賀8大ニュース

① 「森林ボランティア専門班」を編成 （6月、受け入れ先と交流会）。
② 初の植樹を実施 （１２月、新発田市・荒川生産森林組合管理地で）。
③ 三川村のログハウス造り、専門誌に紹介される。
④ ログハウスの完成、２１世紀へ持ち越す。
⑤ ２回目の冬期学習を開催（２、３月新潟市鳥屋野地区公民館で）
⑥ 山小屋合宿の新年会、大盛況。
⑦ 真柄夫妻の“野戦料理”はウッディ阿賀名物
⑧ 山好きの美女、蜂に襲われる。

注＝詳報は「特別ページ」に。

新発田市荒川地内の植林地、上は作業前（7月）下は汗と涙で開墾、杉苗を植えた現地（10月末）

植林作業。一定の間隔で「大きく育て」の願いを込めて

植林する苗木数を決めるのに測量は必須科目

草刈り機など作業機械の点検は大切だ

植林予定の開墾に汗を流した会員たち。みんないい顔です！

現場に通じる道の、台風で増水した沢に仮橋を架ける

つるきり作業。幼木にからみついたつるを1本1本丁寧に取り外す

ログハウス造り。丸太が足りない、搬出は"人海戦術"で

名デザイナーがいてログハウスの標札もご覧の通り。熊もあいさつするとか

昼食は何よりの楽しみ。真柄夫妻の心のこもった"野戦料理"が好評

新年の山小屋合宿は木製ワッペン作りの研修も兼ねた。なかなかの出来栄え

木は旅が好き

木は
いつも
憶っている
旅立つ日のことを

ひとつところに根をおろし
身動きならず立ちながら

花をひらかせ　虫を誘い　風を誘い
結実を急ぎながら
そよいでいる
どこか遠くへ
どこか遠くへ

ようやく鳥が実を啄(ついば)む
野の獣が実を噛(かじ)る
リュックも旅行鞄もパスポートも要らない
のだ

小鳥のお腹なんか借りて
木はある日　ふいに旅立つ　空へ

ちゃっかり船に乗ったのもいる

ポトンと落ちた種子が
(いいところだな　湖が見える)
しばらくここに滞在しよう
小さな苗木となって根をおろす

元の木がそうであったように
分身の木もまた夢をみはじめる
旅立つ日のことを

幹に手をあてれば
痛いほどにわかる
木がいかに旅好きか
放浪へのあこがれ
漂泊へのおもいに
いかに身を捩(よじ)っているのかが.

茨木　のり子
詩集「倚(よ)りかからず」より

◆◆◆ あとがき ◆◆◆

◇ この一年、会報を怠けていました。年が明けて21世紀、干支は龍から蛇へ。蛇は山野にはつきもの、嫌いな人が多いようですが、自然があればこその生き物です。しかも金運の神様。せめて新世紀の初夢は「3億円の宝くじ大当たり」とでかく大きく。

◇今号から寺島勝さんの連載「The森」を始めました。17回で完結の予定です。森を知る手引きとしてご愛読下さい。

8大ニュースの詳細報告

①森林ボランティア専門班発足

同班の発足を兼ねて6月10日（土）午前9時から新発田市荒川の景勝地「剣龍峡」で地元森林組合との交流会を開いた。午前中は同組合の管理する水源涵養林などを見て回った。山頂付近は五頭山系にもつながり、ウグイスなど野鳥の声に耳を傾け、森の持つやさしさを満喫した。午後はお手のものの山菜料理で大パーティー。お酒も入って舌の滑らかになった同組合の“森博士”たちから貴重な体験談を聞き、お互い木への愛着を心おきなく話し合った。

②初の植樹を実施

森林ボランティア班締めくくりの作業。12月2，3の両日、約30アールの開墾地に、2日間延べ30人が参加して800本の杉苗を植えた。

③三川村のログハウス作り、専門誌が紹介

林業専門誌「林業新知識」は11月号に、「ウッディ阿賀の会」の活動をユニークな取り組みとして写真（会報の表紙に掲載）付きで大きく取り上げた。

④ログハウスの完成、21世紀へ

作業の進展とともに建築専門技術が必要になったのと準備した伐採丸太が不足する一などの事態が生じ、年内完成予定が遅れた。2001年の新世紀に絶対完工の乾杯を行おう。

⑤2回目の冬期学習を開催

新潟市鳥屋野地区公民館で前年に引き続いて開き、2月は森林インストラクター・本間英樹さんの講演。豊富な体験を巧みな話術で語り、抜群に面白かった。
3月は新潟市消防局と林材業労働災害防止協会の協力を得て「安全作業と救急法」の講習会。作業にやや慣れてきて心も緩みがちなのでタイムリーな企画と好評だった。

⑥山小屋合宿の新年会、大盛況

村松町・早出川ダム近くのログハウスを借用し、1月22～23の両日にわたって開いた。冬期学習の閉会を兼ねて「木製ワッペン」製作をしたあと、山賊鍋を囲んでの酒盛りは深夜に及び、まさに「梁山泊」の集いそのものだった。こうした合宿は10月荒川、11月新発田市赤谷の「久歓亭」（江添武氏別宅）でも行われた。

⑦真柄夫妻の“野戦料理”はウッディ阿賀名物

三川村のログハウス建設現場では、真柄夫妻の作る鍋・焼き肉などの料理が会員達の活動力の源泉に。春は山菜、秋はキノコと現地調達の“山の幸”が加味され、林間での昼飯は何よりの楽しみとなっている。

⑧山好きの美女、蜂に襲われる

森林班の後藤亜季子さんは荒川で作業中、蜂の襲撃を受けた。幸い、手当が早く大事に至らなかった。蜂がやきもちを焼いたとの風評もあるが、くれぐれも気を付けたいもの。ちなみに香田和夫さんは、その前年ログハウス現場で襲われている。2度目は特に危険とか。ゆめゆめ油断なからんことを祈る。

平成12年・活動参加状況報告

（＊対象期間は4月8日～12月3日 ＊森林班は土・日を1出席とした ＊森林整備に参加したログ班は回数に加算）
総参加数は343回。登録会員数42で割った平均は8.16回となります。

参加ベスト10は次の通り。

①伊藤武文（森林班）22回　②皆川文好（同）21回　③小池洋（同）、宮田英彰（同）18回　⑤板橋昭彦（同）、荻原智志（ログ班）、山内孝（同）17回　⑧石塚広男（同）、桑原里実（同）16回　⑩吉岡民翁（森林班）15回

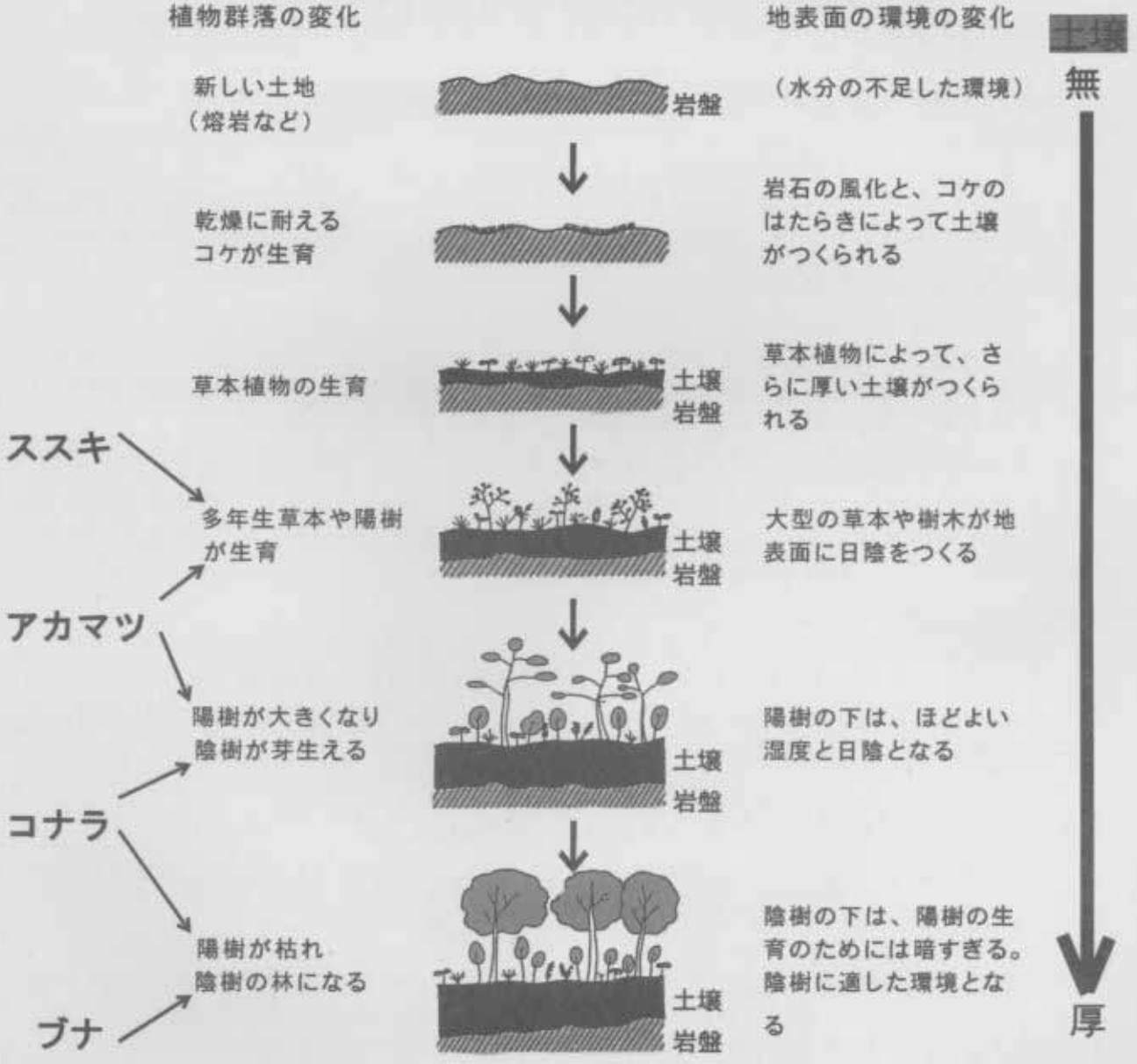
THe 森

寺島　勝
新潟県・林業事務所職員

① 森林の発達と遷移のⅠ（一次遷移）

稲作をやめた水田は、いつの間にか草原に変わっていきます。降水量が豊富な日本では、荒れ地もいつかは森林に戻っていきます。このように時間とともに植物の内容が移り変わり、森林ができていく現象を遷移（せんい）といいます。遷移の結果、たどり着く森林を極相林（きょくそうりん）と呼びます。一般に原生林と言われる森林が極相林です。極相林は、生態的に安定しているため、何百年もその姿を変えることがありません。

森林は土と密接な関係を持ちますが、全く土のない場所から植物の移り変わりとともに土が作られ、豊かな森林に姿を変えていきます。こうして長い時間を経て作られたからこそ、原生林と呼ばれる森林は貴重であるといえます。

極相林を作る樹種は気温によって決まりますが、新潟県を含む東日本では、言わずとしれたブナが極相林の主役です。

次回は「森林の発達と遷移のⅡ（二次遷移）」。